プレスリリース

C.A.P.によるアートから社会や歴史をつなぐ大人たちの学びの場の実験

ARTS STUDY 2025 アートの学びとつどい

「神戸」「芸術と社会」「交流」をキ―ワードにまちなかで開催するアートからの学びの7ヵ月

期間：2025年8月24日(日)～2026年2月27日(金)（7カ月間）
会場：KOBE STUDIO Y3、BARまどゐ、
神戸旧居留地高砂ビル412号室
芦屋市立美術博物館、兵庫県立美術館、
The Terminal KYOTO、京都芸術センター、
デザイン・クリエイティブセンター神戸 （KIITO）

主催：C.A.P.（特定非営利活動法人芸術と計画会議）
共催：認定NPO法人まなびと
助成：助成／令和7年度 神戸市地域貢献活動補助金
協力（50音順）／アンサンブル・ゾネ／NPO法人DANCE BOX／京都芸術センター／ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川／The Terminal KYOTO／デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）／Marching KOBE

＜お問い合わせ＞
C.A.P.事務局 [10：00 ～19：00／月曜休]
650-0003 神戸市中央区山本通3-19-8海外移住と文化の交流センター内
phone ／fax：078-222-1003　email：artsstudy@cap-kobe.com
ARTS STUDY特設サイト/https://cap-kobe.com/arts-study2025
C.A.P.ホームページ：https：//www.cap-kobe.com

ARTS STUDY 2025 特設サイト

このたびC.A.P（特定非営利活動法人「芸術と計画会議」）は神戸・阪神地域のアーティストや研究者たちを講師に迎え、「ARTS STUDY2025　アートの学びとつどい」を開催します。設立当初からアートの社会実践を試みてきたC.A.P.によるあらたな試みとして、アートを通じた学びとつどいの場を講座を中心に7カ月間まちなかの複数の会場で開きます。作り手と受け手が共にアートから深く学ぶこと、共に高め合うことを目的に取り組むこの活動は、まずは芸術鑑賞を深めるための入門的な講座として2年前より実施してきました。

ARTS STUDY2025はアートの学びとつどいがコンセプトです。
「神戸」「芸術と社会」「交流」をキーワードに、６つの3回連続講座（全22講座）と気軽に参加が可能な遠足、読書会、交流会などを実施します。 今年度の特徴は連続講座と単発講座の2つの講座スタイルです。前者は1回の講座では学びきれない内容を、もう少し深く丁寧に学ぶためのショートゼミのような講座です。後者は神戸ゆかりのアーティストや受講者同士が交流する機会が増えること、仲間に出会えること、そこからあらたなコミュニティが生まれることを目的としたゆるやかな講座です。1人ではなく共に学ぶ時間や出会いを大切にしたい。不確かな時代だからこそ、過去や今のクリエイティブな実践から学ぶことに勉強とは異なる大人の学びの意義があります。そのために、講座にとどまらない共通の関心を持つ大人たちの場づくりが必要なのです。

現在、関西でもこのような規模の講座は他に開催されていません。また講師もすべて神戸や阪神地域にゆかりがあり、世界でも活躍する方々ばかりです。単回でも受講できるので、日常の暮らしの中でARTに深く学び、そして仲間と出会う7ヵ月になります。この機会に是非ご参加ください。

ARTS STUDY 2025 講座リスト　3回連続コース

■「神戸」「芸術と社会」「交流」をキーワードに6つの3回連続コースを実施。

ARTS STUDY

1｜「具体」再考

戦後日本を代表する前衛グループ「具体」にとって万博とは何だったのか？その光と影について2回に分けて考察する。1回目は芦屋でゆかりの地めぐりや展覧会鑑賞、3回目はを研究者、ダンサーと一緒にレクチャー＆パフォーマンス、ワークショップを実施する特殊講義。

講師：**平井章一**（関西大学文学部教授）

岡登志子（ダンサー/振付家/アンサンブル・ゾネ主宰）＊3回目のみ

①8/24(日)11:45-16:30 JR芦屋駅集合→芦屋市立博物館へ
②9/5(金)19:00-20:30 BARまどゐ
③12/28(日)13:00-16:30　デザイン・クリエイティブセンター　1階　KITOホール

2｜ヨーゼフ・ボイスと考える

芸術と社会について考えることをテーマに、その先人としてヨーゼフ・ボイスに着目し講座を開講します。ボイスの芸術活動を通して芸術と社会について考える講座です。

講師：**福元崇志**（国立国際美術館　主任研究員）

①11/14(金)　②1/9(金)　③1/30(金)　各回19:00―20:30　BARまどゐ

3｜音楽

音楽とは何か？ 音楽以前の「音」や「聴く」ということを紐解くことから始まり、音楽鑑賞を捉えなおす講座。17世紀の知の巨人A・キルヒャーや20世紀音楽のジョン・ケージ、シュトックハウゼンから考察します。この講座はアーティストのスタジオで開催します。

講師：**藤本由紀夫**（アーティスト）

①10/17(金)　②11/7(金)　③12/5(金)　各回19:00―20:30　神戸旧居留地高砂ビル4階412号室

4｜展覧会の作り手

リヒター、ロスコなど数々の現代美術の巨匠たちの展覧会や「横浜トリエンナーレ2014」や「アートプロジェクトKOBE2019：TRANS-」など様々なアートプロジェクトを手掛けてきたキュレーターによる講座。美術館での企画はどこから生まれるのか？多くの関係者を巻き込みながらどんなかたちに落とし込むのか。芸術祭やアート・プロジェクトでの企画立案から実現にいたる道程、作家との協働、地域連携などについて、詳しくお伝えします。

講師：**林寿美**（インディペンデント・キュレーター）

①9/19 (金)　19:00-20:30　BARまどゐ
②9/26(金)　19:00-20:30 BARまどゐ
③10/25(金)　14:00-16:00 The Terminal KYOTO→京都芸術センター

5｜展覧会とカタログ

美術の世界ではあまりにも一般的な存在である「展覧会カタログ」というものを、グラフィック・デザイナーの実践的な視点で捉え直す試みです。定義や社会的機能の概説と、編集とデザイン行程に関する様々なケース・スタディーを通して、展覧会カタログをどう見るか、どう作るかのヒントを提示します。

講師：**秋山伸**（グラフィック・デザイナー／ブック・メイカー）

①12/12(金)　②1/16(金)　③2/6(金)　各回19:00―20:30　BARまどゐ

6｜Artist ゼミナール　榎忠

神戸在住の伝説の男の様々な伝説的作品を各回1点ずつ紐解く！
大阪万博での「裸のハプニング」、六甲山から美術館まで25mの松の木を移送したJAPAN KOBE ZEROの作品「TREE, out-in-out」、ポートピア博のメイン作品にして最大規模の作品「スペースロブスターP-81」を取り上げます。

講師：**榎忠**（美術家）
聞き手：**山下和也**（ARTS STUDYディレクター）

①10/10(金)　②1/23(金)　③2/27(金)　各回19:00―20:30　KOBE STUDIO Y3

各講座の詳細は特設サイトでご確認ください。

平井章一（関西大学文学部教授）
関西大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了。博士（文学）。
1988年に兵庫県立近代美術館学芸員以降、様々な美術館で学芸員を経て、2018年から現職。「具体」研究の第一人者。著書に『「具体」って何だ?』（美術出版社、2004年）などがある。ARTS STUDY2024でｹﾞﾝﾋﾞとグループ位の講座を担当。

岡登志子（ダンサー/振付家、アンサンブル・ゾネ主宰）
ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州立フォルクヴァンク芸術大学舞踊科卒業。1993年より神戸を拠点にドイツで習得したダンスメソッドを実践しながら、人間の実存を問う作品づくりを行っている。ASHIYA ART PROJECT副実行委員長。ARTIST STUDY2024ではダンス講座担当。

福元崇志（国立国際美術館 主任研究員）
大阪大学大学院で美学芸術学を専攻し、主にドイツと日本の現代美術についての研究を行う。2015年より国立国際美術館にて勤務。「ボイス＋パレルモ」（2021年）、「梅津庸ークリスタルパレス」（2024年）などの展覧会を手掛ける。

藤本由紀夫（アーティスト）
C.A.P.初代メンバー。2001年に第49回ヴェネチア・ビエンナーレに日本館代表作家として参加。代表作に、54個のオルゴールが1音ずつ音を奏でる《STARS》（1990）、長い塩化ビニールのパイプを通して空間のなかの気配や振動を聴く《EARS WITH CHAIR》（2007）など。2023年にCAP STUDYで美術の講座を担当。

林 寿美（インディペンデント・キュレーター）
国際基督教大学卒業後、DIC川村記念美術館に勤務。2012年に独立し、横浜トリエンナーレ、ゲルハルト・リヒターの豊島プロジェクトをはじめ、国内外の展覧会やアートプロジェクトに携わる。2019年には神戸のアート・プロジェクト「TRANS-」のディレクターを務めた。主な著書に『ゲルハルト・リヒター絵画の未来へ』（2022年、水声社）

秋山 伸（グラフィック・デザイナー／ブック・メイカー）
1990年代より、東京・新宿で、建築・デザイン・美術の領域で、展覧会グラフィックや書籍のデザインに携わる。世界で最も美しい本コンクール、ブルノ・グラフィック・デザイン・ビエンナーレやニューヨークADCなどで、国際的な評価を得る。現在、神戸芸術工科大学ビジュアルデザイン学科教授、多摩美術大学絵画学科版画専攻客員教授、名古屋芸術大学芸術学部デザイン領域特別客員教授。2018年より造本装丁コンクール（Japan Book Design Awards）審査員。2025年には、Stiftung Buchkunst（ドイツ書籍芸術財団）の招きで「世界で最も美しい本コンクール／Best Book Design from all over the World」の審査員を務めた。

榎忠（アーティスト）
1944年香川県善通寺市生まれ。60年代後半から関西を中心に活動。前衛グループ「JAPAN KOBE ZERO」での活動(1970-76年)を経た後、街中での会場探しからはじめ、自ら展覧会全体を作り上げることを行ってきた。代表作「ハンガリー国へハンガリ(半刈り)で行く」(1977年)、「Bar Rpse Chu」(1979年)など型破りなパフォーマンスや、銃や大砲などを扱った作品、金属の廃材に新しい生命を吹き込んだ作品など、独自の世界を展開。美術館やギャラリーに限ることなく、現在も神戸を拠点に活動を続けている。ARTS STUDY2024でも登壇。

ARTS STUDY 2025 講座リスト　単発講座

■神戸を拠点に活動する注目アーティストの紹介や気軽に参加できる単発講座も実施。

A｜ARTSの遠足＠兵庫県立美術館　「収蔵品と常設展について考える」
兵庫県立美術館で開催中の2025コレクション展Ⅰ「ベスト・オブ・ベスト2025」展の鑑賞と学芸員による表題をテーマとした講座を開催します。
講師：兵庫県立美術館学芸員
10/5(日)　13:00–15:00 兵庫県立美術館

B｜Artist Study
今アーティストは何を考え、どういう活動をしているのか？現在、神戸にいる、あるいはゆかりのあるアーティストを音楽、美術、ダンスと横断してお招きしお話を聞きます。
①10/24(金)　②11/21(金)　③12/19(金)　④2/13(金)　19:00–20:30 BARまどゐ

C｜ARTS STUDY読書会
西東三鬼「神戸・続神戸」やアートブック持ち寄り会など。テーマはNEWSやSNSで公開します。
①9/28(日)　②11/30(金)　③2/1(金)　11:00–12:30 KOBE STUDIO Y3

D｜ARTS STUDY交流会
読書会の後に開催します。ARTS STUDYスタッフや参加者同士で講座のことやなんでも気軽に集まりお話ししましょう。
①9/28(日)　②11/30(金)　③2/1(金)　13:30–15:00 KOBE STUDIO Y3

講師紹介　B｜Artist Study

稲垣智子（美術家）
神戸在住。ロンドンの美術大学卒業後、日本帰国。大阪大学大学院アート・メディア論修士課程修了。国内外で 展示やアーティスト・イン・レジデンスを行う。作品は、ビデオインスタレーションが多く、生と死、自然と人工、そして男女の 境界を模索するものがある。アートディレクター、プロデューサー等の経験があり、2025年秋には新たなアートスペースを 立ち上げ予定。社会とつながるアートの実践を日常の中で問う。
https://tomokoinagaki.com/

飯川雄大（美術家）
神戸を拠点に活動。2007年より継続している〈デコレータークラブ〉シリーズは、公共空間や制度への介入、記憶、感覚、身体性といった要素を内包し、観客の参加や想像力によって完成される構造をもつ。これまでに「同時に起きる、もしくは遅れて気づく」（彫刻の森美術館、2022年）、「チャンネル12 ｜メイクスペース、ユーズスペース」（兵庫県立美術館、2022年）で個展を開催。2026年春、水戸芸術館現代美術ギャラリーにて個展「大事なことは何かを見つけたとき」の開催が予定されている。
https://takehiroiikawa.tumblr.com

中間アヤカ（ダンサー、ダンスアーティスト）
別府生まれ、神戸在住。「ダンスとしか呼ぶことのできない現象」を追い求め、それが現れる瞬間を他者と共有するための仕掛けを創り出すことに挑戦している。これまでの作品に、庭で他者の記憶を踊る4時間のソロダンス『フリーウェイ・ダンス』、空き地に建てた仮設劇場を運営し解体までを見届ける『踊場伝説』などがある。2022年度よりセゾン文化財団セゾン・フェロー。第16回神戸長田文化奨励賞受賞。
https://ayakanakama.studio.site/

山根明季子（作曲家）
神戸在住。日本を拠点に過剰な消費や管理、少女性や痛みの感覚、ポップ、マスカルチャーに関係する主題を多く扱う。作曲作品に琵琶とオーケストラのための《ハラキリ乙女》、任意の編成のための《状態》、《カワイイ^_ ☆》など。監修公演に神奈川県民ホール『CxC ジョン・ケージx 山根明季子』、両国アートフェスティバル2024『二次創作』など。音を介した探究や対話の場を作ることを続けている。
https://akikoyamane.com/

主催者情報

C.A.P.（キャップ／特定非営利活動法人「芸術と計画会議」）

拠点：〒650-0003 神戸市中央区山本通3-19-8「神戸市立海外移住と文化の交流センター」内

活動、特徴：

1994年に設立したアーティスト・イニシアティブ団体。2002年にNPO法人化。C.A.P.は、芸術と社会、芸術と地域の関係性について、アーティストのまなざしから新しい提案、実践を続けるために、杉山知子が声掛け人となり立ち上がった会議体でありアートコミュニティ。2025年現在、「旧国立移民収容所」（現、神戸市立海外移住と文化 の交流センター）の建物内に事務所を構え、同施設でギャラリー、アーティストの個室スタジオ、木工や陶芸の共同スタジオ、コミュニティスペースなどの運営を行う。また、海外のアートコミュニティとの連携事業「See Saw Seeds」、芸術祭「六甲ミーツ・アート」（2020～2023年、2025年）への招待参加など、施設運営に留まらず地域や社会に対して多様な取り組みを行っている。

30周年記念パーティー に集まるメンバーたち

ARTS STUDY 2024を6カ月間開催

■ ARTS STUDY2025 ディレクター
山下和也 （日本画家、東洋絵画修理技術者、C.A.P.メンバー）

2017年より神戸市在住。東洋絵画の修理技術者としての仕事と共に、大学での非常勤講師、美術館や自主企画の日本画のワークショップ、アートプロジェクトなど、作品制作や活動を通じて、歴史や過去に学びながら現代における芸術の可能性を「つぐ・つなぐ」という行為によって様々な方法で試みている。ARTS STUDY 2024ではARTのプログラムを企画／担当し、今年度はディレクターとしてすべての講座を企画／担当する。